

環境報告書

2016



企業団キャラクター
ウォービー

ウォービーとは、企業団のキャラクターです。

「水」を意味するWater（ウォーター）と、「生命体」を意味するBeing（ビーイング）とを組み合わせ、誕生しました。

神奈川県内広域水道企業団では、『安全で良質な水道水を送り続けるトップレベルの広域水道』を将来像に掲げ、その実現に向けた6つの目標を設定し、取り組みを進めているところです。

『地球環境の保全』はその実現目標の1つであり、CO₂排出量削減に向けた環境対策を積極的に推進し、安全で良質な水道用水を供給し続けていきます。

この他、環境への理解と関心を深める取り組み等を通して環境に配慮した関わりを推進していきます。

 特別地方公共団体

神奈川県内広域水道企業団

目 次

はじめに	1
環境マネジメント	2
■ 企業団の環境方針	2
■ 温室効果ガス排出量の削減目標	2
事業の概要	3
■ 企業団の設立	3
■ 企業団の事業	3
■ 水安全計画に基づくワンランク上の水道水質管理	5
■ 水道G L Pの認証取得	6
■ I S O 9 0 0 1の認証登録	6
水道水が届くまでの環境負荷（平成27年度）	7
生産活動における環境保全の取組み	9
■ 温室効果ガス排出量の削減目標達成状況（平成27年度）	9
■ 活動区分ごとの削減目標達成状況（平成27年度）	10
■ 再生可能エネルギーの導入と活用	11
■ 節電への取組み	13
■ 低排出ガス車の導入促進	14
■ 浄水発生土のリサイクル	14
■ ゴミ分別とリサイクル	14
環境コミュニケーション	15
■ みずきフェスタ（社家）・野鳥観察会（飯泉）	15
■ 河川清掃ボランティアへの参加	16
■ 水源環境保全活動への協賛・参加	16
■ 「宮ヶ瀬ダム水とエネルギー館」水道ゾーンへの出展	17
■ 5事業体共同広報	18
■ 川と湖の魚フェア（内水面まつり）への出展	18
■ 酒匂川水系水源監視モニター制度	18
■ 酒匂川流域下水道負担金	18

はじめに

神奈川県内広域水道企業団(以下「企業団」という。)では、企業団が取り組んでいる環境保全活動等について、県民・市民のみなさまにご報告するために本報告書を作成しています。

作成にあたっては、水道水が届くまでの環境負荷や生産活動における環境保全のための取り組み、温室効果ガス^(※)の削減量など、これらを数値化することにより、分かりやすく紹介するよう心がけています。

※ 温室効果ガスとは

地球温暖化の原因となる気体であり、法に基づき排出量を把握する対象となるものは、次の7種類の物質です。

温室効果ガスの種類	主な発生源	企業団での主な発生源
二酸化炭素(CO ₂)	産業、民生、運輸部門などにおける燃料の燃焼に伴うものが全温室効果ガスの9割程度を占め、温暖化への影響が大きい。	電力及び燃料の使用
メタン(CH ₄)	稲作、家畜の腸内発酵などの農業部門から出るのが半分以上を占める。	自動車の走行、ガス・ガソリン機関での燃料使用
一酸化二窒素(N ₂ O)	燃料の燃焼に伴うものや農業部門からの排出がそれぞれ3～4割を占める。	自動車の走行、ガス・ガソリン機関での燃料使用
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	エアゾール製品の噴射剤、カーエアコンや冷蔵庫の冷媒、断熱発泡剤などに使用する。	カーエアコンの使用・廃棄
パーフルオロカーボン(PFC)	半導体等製造用や電子部品などの不活性液体などとして使用する。	該当なし
六ふっ化硫黄(SF ₆)	変電設備に封入される電気絶縁ガスや半導体等製造用などとして使用する。	電気機械器具の使用・廃棄
三フッ化窒素(NF ₃)	半導体や液晶の製造時にエッチングガスとして用いられる。	該当なし



環境マネジメント

■ 企業団の環境方針

企業団は安全で良質な水道水を送り続けるため、水源保全の取組みを関係団体と協力して行うとともに、良好な水環境を将来にわたって維持していくため、温室効果ガス排出量の削減などの環境保全の取組みを行っていきます。

■ 温室効果ガス排出量の削減目標

企業団では、平成15年度から平成19年度までを計画期間とした第1次神奈川県内広域水道企業団地球温暖化対策実行計画、平成20年度から平成24年度までを計画期間とした第2次神奈川県内広域水道企業団地球温暖化対策実行計画を策定し、省エネルギー対策など温室効果ガス排出量を抑制する取組みを進めてきました。

引き続き、切れ目のない地球温暖化対策を実施するため、第2次実行計画の一部を改訂したうえで、削減目標を変えずに、平成25年度から平成32年度までを計画期間として取組みを進めています。

第2次実行計画では、すべての組織・施設における事務・事業活動において排出された温室効果ガス排出量の削減と、企業団で実施された省エネルギー対策等の結果を評価するため、取水量1㎡あたりの温室効果ガス排出量の削減を目標に掲げています。

第2次実行計画に掲げる目標

改訂版

温室効果ガスの総排出量を平成32年度までに
平成18年度比で6.0%削減します。

取水量1㎡あたりの温室効果ガスの排出量を平成32年度までに
平成18年度比で1.0%削減します。

事業の概要

■ 企業団の設立

企業団とは、

- ① 水道用水の広域的有効利用を図る。
- ② 重複投資を避ける。
- ③ 効率的な施設の配置及び管理を図る。
- ④ 国の補助金の導入を図る。

これらを目的として、神奈川県、横浜市、川崎市及び横須賀市（以下「構成団体」）の各水道事業体に水道用水を供給するために、昭和44年に設立された「特別地方公共団体」です。

■ 企業団の事業

- 創設事業（酒匂川水系）【事業年度：昭和44年度～昭和53年度（10箇年）】
県内における新たな水源として酒匂川から取水し、構成団体へ1日最大1,454,800m³の水道用水を供給するため、施設整備を実施しました。

酒匂川の支川河内川上流に建設された三保ダムで貯水し、河口から約2.3km地点の飯泉取水せきで取水した原水は、飯泉ポンプ場で揚水し、導水トンネルを経由して、伊勢原、相模原及び西長沢の各浄水場で浄水処理した後、構成団体へ送水しています。



- 相模川水系建設事業（第1期）【事業年度：昭和55年度～平成19年度（28箇年）】
相模川の支流中津川に建設された宮ヶ瀬ダムで開発された1日最大1,209,000m³の水道用水のうち、当面、第1期事業として1日最大577,500m³の水量を構成団体へ供給するための施設整備を実施しました。

相模川河口から12km地点にある相模大ぜきで取水した原水は、主に綾瀬浄水場で浄水処理した後、構成団体へ送水しています。

また、社家ポンプ場から伊勢原浄水場直下の酒匂川系導水路の間に導水管を布設し、相模川・酒匂川両水系の原水を相互に運用することが可能となっています。

- 相模川水系寒川事業

平成13年度から宮ヶ瀬ダムで開発された水量の一部については、神奈川県、横浜市及び横須賀市の所有する取水・浄水施設などを使用し、水道用水を供給する相模川水系寒川事業を暫定的に実施しています。

なお、平成15年度からは、水道法上の第三者委託（水道の管理に関する技術上の業務の委託）として実施しています。



■ 水安全計画に基づくワンランク上の水道水質管理

水道水の水質に対する県民・市民のみなさまの関心は高く、国の定めた水道水質基準をクリアしている安全な水道水だけでなく、良質で安心できる水道水が求められています。

企業団では、県民・市民のみなさまに安全で良質な水道水を常に利用していただくために、「かながわの水道用水供給ビジョン」の中で8つの項目について、水質基準値よりも更に厳しい企業団独自の目標値を掲げています(下表)。その目標を達成するための取組みの一つとして、「水安全計画」の考え方に基づく「ワンランク上の水道水質管理」を実施しています。

かながわの水道用水供給ビジョン 供給水の水質目標値

項目	水質目標値(供給水)		国の基準値等	
	クラスⅡ	クラスⅠ		
臭気強度	TON1未達成率:75%	TON1未達成率:100%	3以下	
残留塩素	0.6~0.8mg/L	0.5~0.7mg/L	0.1~1.0mg/L	
カビ臭	ジェオスミン	3ng/L以下	不検出*	
	2-MIB	3ng/L以下	不検出*	
有機物	TOC	0.5mg/L以下達成率:80%	0.5mg/L以下達成率:100%	3mg/L以下
アルミニウム		0.05mg/L未達成率:80%	0.05mg/L未達成率:100%	0.2mg/L以下
農薬類		検出指標値0.1以下	検出指標値0.05以下	検出指標値1以下
総トリハロメタン		0.010mg/L以下達成率:80%	0.010mg/L以下達成率:100%	0.1mg/L以下

*カビ臭物質のクラスⅠ目標値「不検出」は定量下限値未満。

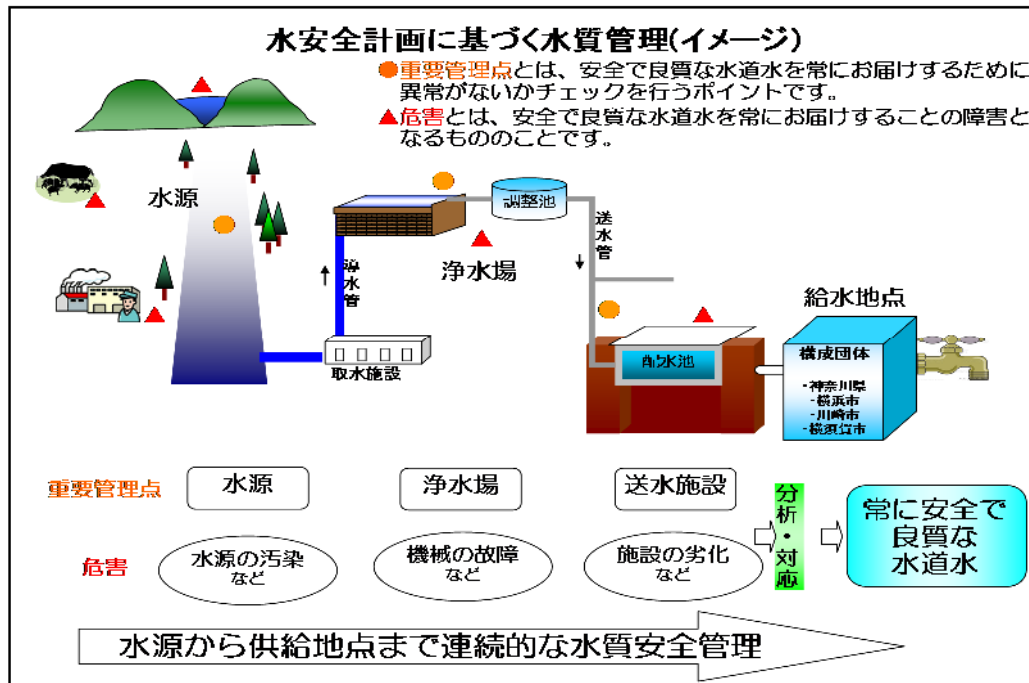
- ・クラスⅠとは、「ワンランク上の水道水質管理」の実現に向けて目指すべき目標値
- ・クラスⅡとは、構成団体がそれぞれのビジョンで定める水質目標を十分達成できる目標値

「水安全計画」とは、水源から水道水までを一連の工程として管理する、WHO(世界保健機構)や厚生労働省が導入を推進している、水道水質管理の方法です。

企業団は、酒匂川、相模川という流域の広い2つの河川を水源としています。河川水は、降雨などによる水質の変動が湖沼や地下水に比べて大きいことから、安全で良質な水道水を送り続けるためには、水質の変化をいち早く捉え、迅速な対応が必要となります。

広域水質管理センターでは、他の行政機関や水運用部門、酒匂川及び相模川の取水地点にある2箇所の取水管理事務所並びに4箇所の浄水場と連携して、水源、河川、浄水場及び給水地点で定期的な水質検査を行っています。

また、水質検査結果、水源流域の状況、浄水処理の能力などを総合的に解析し、常に安全で良質な水道水を送り続けるための水質管理を実施しています。



■ 水道GLPの認証取得

安全で良質な水道水であることを保証するための水質検査結果は正確であることが求められます。

広域水質管理センター及び4浄水場では、平成18年1月に全国で2番目に水道GLP(※)の認定を取得しました。

平成22年1月には、飯泉取水管理事務所も認定を取得したことにより、原水から給水までの浄水処理工程すべての水質検査データの信頼性が認められています。

※ 水道GLP…(公社)日本水道協会が認定する水道水質検査の信頼性保証体制認定制度



■ ISO9001の認証登録

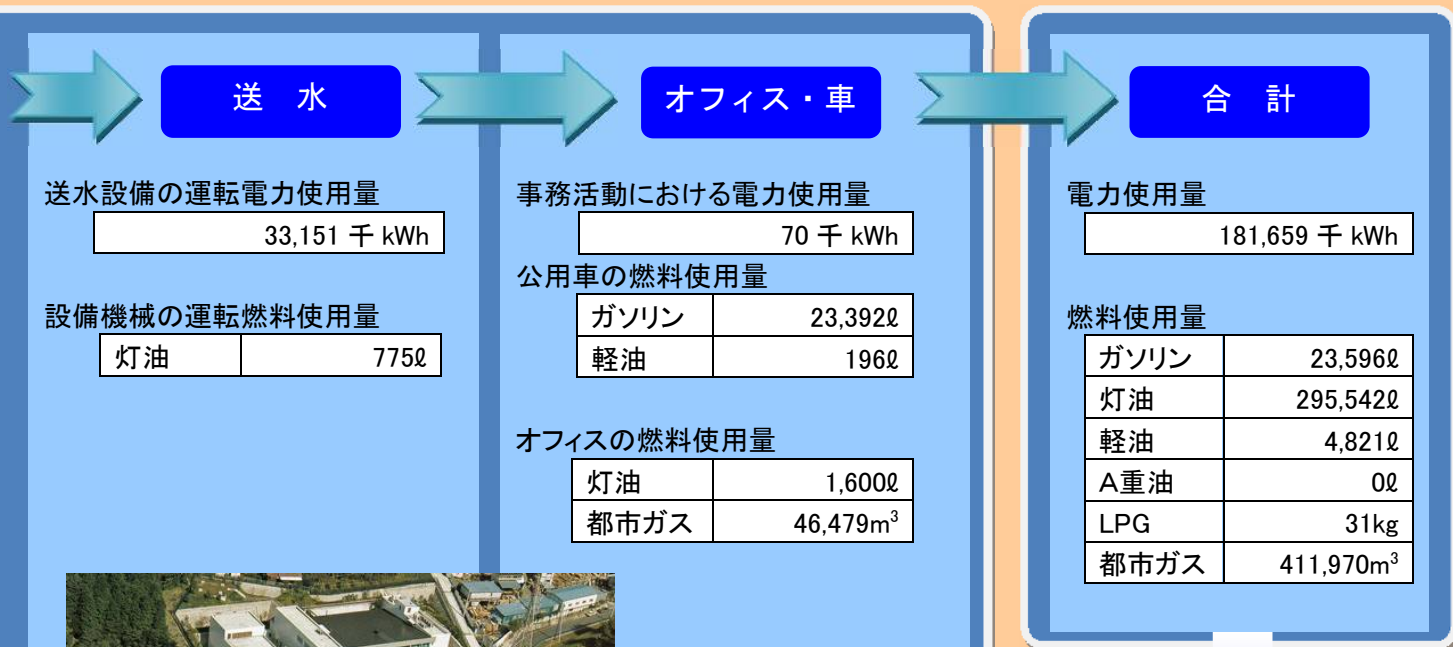
綾瀬浄水場では、浄水過程での品質マネジメントシステムを統一するため、平成26年2月にISO9001(※)を認証登録しました。

※ ISO9001…国際標準化機構(ISO)が制定している、品質管理の国際規格

水道水が届くまでの環境負荷（平成27年度）

この図は、水源から構成団体に水道水をお届けするまでの環境負荷のフローとなります。





調整池では、浄水場から送られた水を貯めています。需要水量に合わせて水量を調整しています。

CO₂ 排出量 91,845,507kg-CO₂

CH₄ 排出量 1,418 kg-CH₄

N₂O 排出量 22 kg-N₂O

HFC 排出量 1 kg-HFC

SF₆ 排出量 4 kg-SF₆

CO ₂ 排出量	16,444,912 kg-CO ₂	CO ₂ 排出量	199,421 kg-CO ₂
CH ₄ 排出量	2 kg-CH ₄	CH ₄ 排出量	99 kg-CH ₄
		N ₂ O 排出量	9 kg-N ₂ O
		HFC 排出量	1 kg-HF
		SF ₆ 排出量	4 kg-SF ₆

温室効果ガス排出量は前年度比で、約 8,048 t 減少しましたが、取水量 1m³あたりの温室効果ガスは前年度比で、約 1.3%増加しました。

生産活動における環境保全の取組み

企業団の生産活動により排出される温室効果ガスの99%以上がCO₂で占められており、温室効果ガス削減のためには、CO₂の削減が重要です。

このため、企業団では、CO₂の削減を主とした様々な施策を実施し、目標達成に努めています。

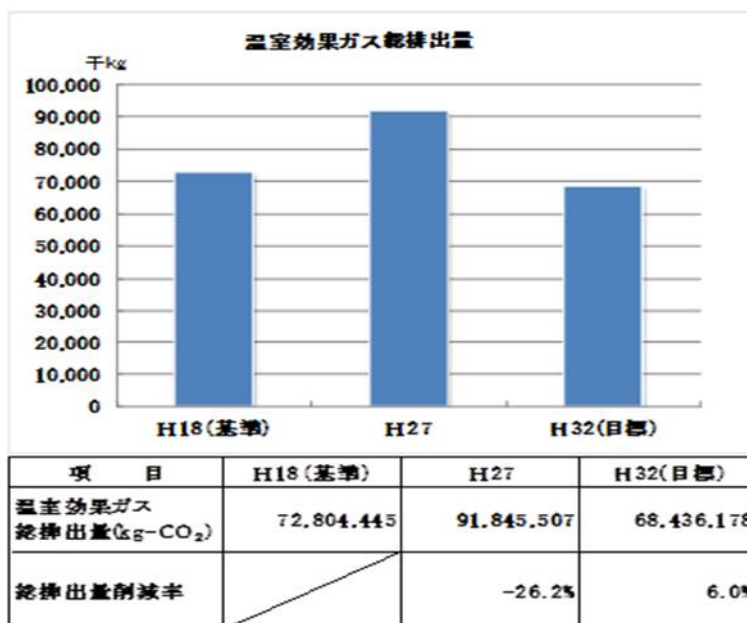
■ 温室効果ガス排出量の削減目標達成状況（平成27年度）

温室効果ガス総排出量については、平成27年度において、平成18年度対比で26.2%増加しました。これは、排出係数の増によるものです。

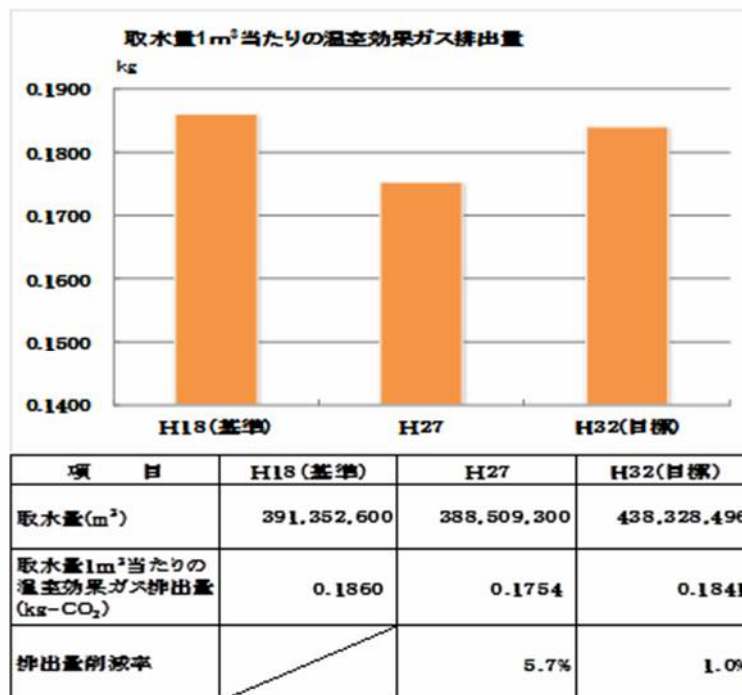
平成32年度までの達成目標である、温室効果ガス総排出量平成18年度対比6.0%削減を実現するため、引き続き目標達成に努めます。

取水量1m³あたりの温室効果ガス排出量については、平成27年度において、平成18年度対比で5.7%削減しました。

平成32年度までの達成目標である、取水量1m³あたりの温室効果ガス排出量平成18年度対比1.0%削減を達成できました。



※ 平成18年度は「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」に基づく排出係数、平成27年度は東京電力発表の排出係数の値を使用して算出



■ 活動区分ごとの削減目標達成状況（平成27年度）

活動区分	平成18年度 (基準年度)	平成27年度	増減率(%)	平成32年度まで の削減目標(%)
三ツ境庁舎の事務活動に係わる 購買電力量(kWh)	598,476	69,938	△88.3	△60.0
事務活動に係る水道使用量(m ³)	46,896	23,535	△49.8	△2.5
印刷物の数量(枚)	405,757	358,722	△11.6	△2.5
コピー用紙の購入枚数(枚)	1,770,708	1,945,500	9.9	△2.5
公用車の燃料使用量 [ガソリン、軽油](ℓ)	30,014	23,587	△21.4	△5.0

○ 三ツ境庁舎の事務活動に係わる購買電力量

平成27年度においては、夜間電力を活用した効率的な水運用や小水力発電の実施、OA室や廊下のLED灯の活用、始業前・昼休みの執務室消灯の徹底、職員におけるエレベーター等の使用抑制、パソコンの省エネモードの徹底、ノー残業デーの設定による定時退庁の促進等により、基準年度(平成18年度)対比では88.3%減少しました。

引き続き、節電対策の徹底により購買電力量の削減に努めていきます。

○ 事務活動に係る水道使用量

平成27年度においては、庁舎事務室等における節水の啓発及び励行に努めたことにより、基準年度(平成18年度)対比では49.8%減少しました。

引き続き、節水の徹底により水道使用量の削減に努めていきます。

○ 印刷物の数量

平成27年度においては、ホームページ等の広報媒体を活用した情報提供に努めた結果、基準年度(平成18年度)対比では11.6%減少しました。

引き続き、可能なものはデータファイルの提供等に努めることにより印刷物の更なる削減に努めていきます。

○ コピー用紙の購入枚数

平成27年度においては、両面印刷や集約印刷等を推進しましたが、資料作成の増加に伴い、基準年度(平成18年度)対比で9.9%増加しました。

今後は、会議・研修会等におけるプロジェクターの活用、プリンターやコピー機で印刷する際の印刷の工夫(両面印刷、縮小印刷、集約印刷)の徹底等により用紙の使用を極力少なくすむよう努めていきます。

○ 公用車の燃料使用量

平成27年度においては、ハイブリッド車の利用や、リース契約更新時に燃費効率の高い車種へ切替えを進めたことにより、基準年度(平成18年度)対比で21.4%減少しました。引き続き、公用車の効率的運用や燃費効率化等を行い、燃料使用量の削減に努めていきます。

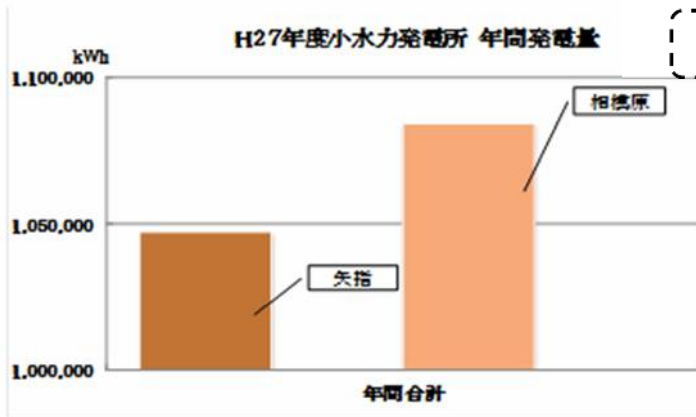
■ 再生可能エネルギーの導入と活用

○ 小水力発電

矢指調整池入口と相模原浄水場着水井に小水力発電設備を設置し、CO₂ 排出量の削減に取り組んでいます。小水力で発電した電力は、それぞれ、三ツ境庁舎及び相模原浄水場での消費電力に充てています。

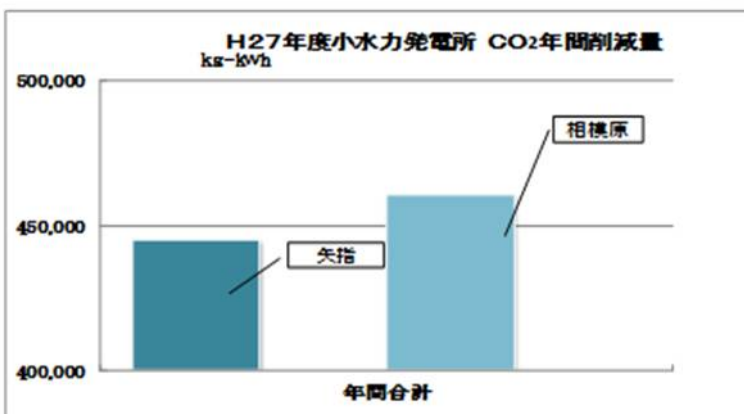
この発電量は、一般家庭約584世帯分の年間使用量に相当します。

なお、矢指小水力発電では、発電余剰分について売電しています。



小水力運用開始：矢指、相模原(ともに20年度末)

項目	年間合計
矢指発電量 kWh	1,047,120
相模原発電量 kWh	1,084,000



項目	年間合計
矢指CO ₂ 削減量 kg-kWh	445,026
相模原CO ₂ 削減量 kg-kWh	460,700

※CO₂削減換算係数 0.426kg/kWh

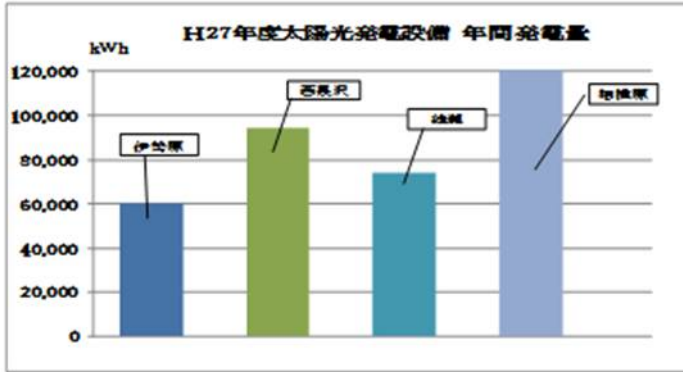


○ 太陽光発電

企業団の4つの浄水場では、沈でん池やろ過池等に太陽光発電設備を設置して、自然エネルギーの利用を図っています。この発電量は、一般家庭約108世帯分の年間使用量に相当します。

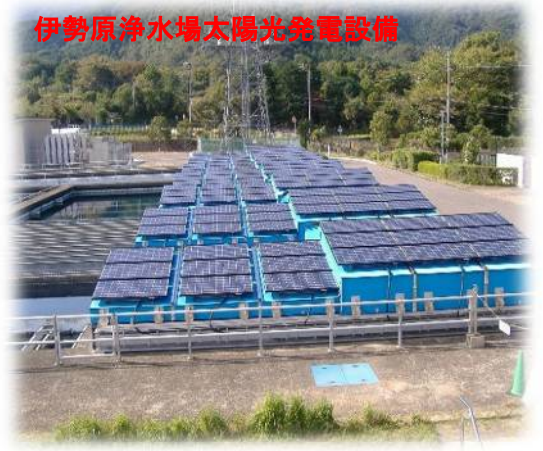
また、浄水場以外にも、日向給水地点他8箇所の給水地点に太陽光発電設備を設置しています。

太陽光運用開始：伊勢原 (23. 2. 17)、西長沢 (24. 3. 22)、綾瀬 (25. 3. 14)、相模原 (26. 3. 27)

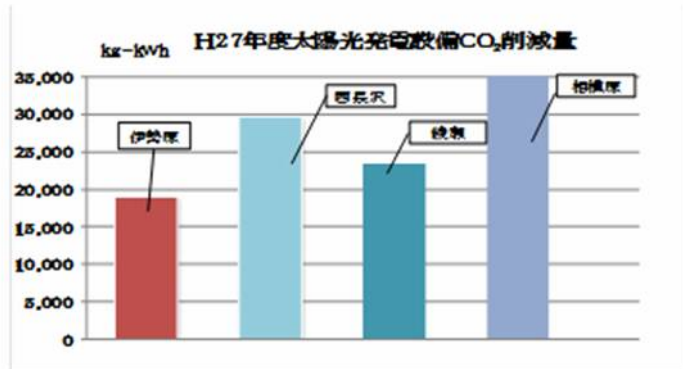


項目	年間合計
伊勢原発電量 kWh	60,181
西長沢発電量 kWh	94,389
綾瀬発電量 kWh	74,239
相模原発電量 kWh	131,611

伊勢原浄水場太陽光発電設備



西長沢浄水場太陽光発電設備



項目	年間合計
伊勢原発電量 kg-kWh	18,927
西長沢発電量 kg-kWh	29,685
綾瀬発電量 kg-kWh	23,349
相模原発電量 kg-kWh	41,392

※CO₂削減換算係数 0.3145kg/kWh

綾瀬浄水場太陽光発電設備



相模原浄水場太陽光発電設備



■ 節電への取組み

企業団では、東日本大震災以前から再生可能エネルギーの活用による節電のほか、水道施設や執務室において様々な節電に取り組んでいます。

節電への取組状況

取 組 内 容		
水道	再生可能エネルギー	給水地点での太陽光発電装置(発電容量17kW)の運用
		伊勢原浄水場沈でん池及びろ過池覆蓋化と併せた太陽光発電設備(発電容量75kW)の運用
		西長沢浄水場ろ過池覆蓋化と併せた太陽光発電設備(発電容量100kW)の運用
		綾瀬浄水場敷地内に設置した太陽光発電設備(発電容量57 kW)の運用
		相模原浄水場地内に設置した太陽光発電設備(発電容量100kW)の運用
		相模原及び矢指小水力発電設備(発電容量260kW)の運用
施設		伊勢原浄水場での夜間電力を活用した処理による、昼間消費電力の抑制
		飯泉取水管理事務所での放流警報装置の表示のLED化
		導水ポンプの最適効率点での運用による、消費電力の抑制
		各浄水場での沈でん池及び排水池フラッシュミキサの運転台数抑制
		伊勢原浄水場での特別高圧変電所変圧器の運転台数抑制
		浄水場管理室及び執務室照明のLED化
執務室		三ツ境庁舎での執務室照明のLED化
		空調設定温度を政府推奨温度とすることの徹底
		使用していないエリアの空調停止
		安全衛生法に規定する照度を確保しながらの照明の間引き点灯
		昼休み時間の消灯
		プリンター使用台数制限
		パソコンの電源設定時間短縮及びディスプレイの照度調整
		常時使用していない機器の電源プラグを抜くことによる待機電力削減
		エレベーターの使用抑制
	気候の寒暖に合わせた服装の調整	
	ノー残業デー(毎週水曜日、金曜日)を設定し、定時退庁の促進による執務室一斉消灯の実施	

■ 低排出ガス車の導入促進

企業団では、平成28年3月末日時点で36台の自動車を保有しています。

そのうち、低公害車を32台保有しており、低公害車導入率は、88.9%となっております。

引き続き、低公害車を積極的に導入し、CO₂排出量削減に努めていきます。

なお、ハイブリッド車は平成21年度から導入しています。

車種	低公害車		その他	合計
	区分	台数	台数	
ハイブリッド車	超	2	—	2
ガソリン車	超	24	4	34
	優	3		
	良	3		
合計	—	32	4	36
低公害車導入率	88.9%			

■ 浄水発生土のリサイクル

企業団では、浄水処理の工程で発生する土は、濃縮、脱水、乾燥の工程(西長沢浄水場は脱水工程まで)を経た後、全量をリサイクルし、埋戻材や農園芸用土として利用しています。

なお、農園芸用土については、国の基準に基づいて出荷を行っています。

平成27年度の浄水発生土リサイクル状況

種別	西長沢浄水場	相模原浄水場	伊勢原浄水場	綾瀬浄水場
埋戻材(t)	2,951.0	3,059.7	0.0	0.0
農園芸用土(t)	4,312.0	0.0	1,253.0	3,080.0
合計(t)	7,263.0	3,059.7	1,253.0	3,080.0

* 震災から平成25年度まで、厚生労働省の通知により農業用のみの利用でしたが、平成26年度から400Bq/kg以下の排出土について園芸利用が可能となりました。

■ ゴミ分別とリサイクル

三ツ境庁舎では、資源化可能な紙類を新聞、雑誌、ダンボール、OA用紙、ミックスペーパー、機密文書等に分別・収集してリサイクルしています。

また、産業廃棄物は、プラスチック、ペットボトル、缶、ビン、陶磁器、電池、金属等に分別し、リサイクルしています。

環境コミュニケーション

■ みずきフェスタ（社家）・野鳥観察会（飯泉）

企業団では、安全・安心な水道水を安定的に供給する企業団事業の役割や様々な取組みをご紹介するとともに、県民・市民のみなさまの共有財産である貴重な水資源を次世代に引き継ぐため、環境保全への取組みの大切さを再認識していただくことを目的として、2施設を開放してみずきフェスタと野鳥観察会を開催しています。

○ みずきフェスタ「社家会場」 平成27年7月25日（土）

- (1) 水道施設見学 相模大ぜき、魚道
観察室、ビオトープ
- (2) 自然観察(野鳥など)
- (3) 川の水が飲み水に変わる実験
- (4) 相模川に生息している魚の展示と
ふれあいコーナー
- (5) エコマジックショー
- (6) チェーンソーアート実演
- (7) 各水道事業体、協賛団体等の出展
- (8) 地元物産等の出展販売等



§ 協賛(みずきフェスタ) §

神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市、山北町観光協会、中日本高速道路(株)厚木工
事事務所、海老名里山づくりボランティア「山仕事の会」、神奈川県水道サービス(株)
月島テクノメンテサービス(株)、水ing(株)

§ 後援 §

相模原市、厚木市、海老名市、山北町

○ 野鳥観察会「飯泉会場」 平成27年12月5日（土）

- (1) 野鳥観察
- (2) 水道施設見学 取水ぜき、
除塵設備
- (3) 広報グッズの配布等



■ 河川清掃ボランティアへの参加

企業団では、大切な水源である酒匂川及び相模川の河川環境を良好に保つため、河川清掃ボランティアに参加しています。

- クリーンさかわ清掃活動(平成27年5月17日(日))
- 「県央相模川サミット」6市町村合同クリーンキャンペーン(平成27年5月17日(日))

■ 水源環境保全活動への協賛・参加

- 公益財団法人かながわトラストみどり財団への協賛

公益財団法人かながわトラストみどり財団では、都市近郊の身近なみどりから、水源林など山地のみどりまで、生活環境から水源環境の保全など、神奈川のみどりを守り育てる運動を推進しています。

企業団では、水源環境保全活動に協力するため、公益財団法人かながわトラストみどり財団の事業に協賛しています。

- 「かながわの水源地域キャンペーン」への参加

企業団では、「水源地域交流の里づくり推進協議会」が主催する、「やまなみ5湖」(「相模湖」、「津久井湖」、「奥相模湖」、「丹沢湖」、「宮ヶ瀬湖」)を紹介するPRイベント「かながわの水源地域キャンペーン」に参加しています。



魚類による水質監視



浄水場における水質検査

■ 「宮ヶ瀬ダム水とエネルギー館」水道ゾーンへの出展

宮ヶ瀬ダムにある「宮ヶ瀬ダム水とエネルギー館」は、水資源の利用と保全の必要性や重要性について、さまざまな展示物で体験しながら学習できるミュージアムで、年間約15万人(平成27年度実績)の方が訪れています。

企業団では、企業団の行っている事業を来場者のみなさまにご理解いただくため、館内水道ゾーンに体験型展示物を提供し、取水、浄水及び送水の仕組みを分かりやすく紹介しています。



開館時間	AM9:00~PM5:00(ただし、冬季(12月~3月)はAM10:00~PM4:00)
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29~1/3)
入館料	無料
場所	神奈川県愛甲郡愛川町半原字大沢 5157
アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ◆東名高速道路厚木 I.C から国道 129 号→国道 412 号「半原小学校入口」交差点左折 ◆中央自動車道相模湖 I.C(圏央道高尾山 I.C)から国道 20 号→国道 412 号「半原小学校入口」交差点右折 ◆神奈川中央交通バス/小田急本厚木駅→「野外センター前經由半原」行き・愛川大橋下車/徒歩 20 分 JR淵野辺駅→「上溝經由半原」行き・終点半原下車/徒歩 30 分 三ヶ木バスターミナル→「関・串川橋經由半原」行き・石小屋入口下車/徒歩30分

■ 5事業体共同広報

企業団と4構成団体の水道事業体では、5事業体が相互に連携を保ち、県民・市民のみなさまの水道事業に対する理解と認識を深めていただくため、神奈川新聞「水」特集号への共同広告掲載及びFM横浜による広報を行っています。

■ 川と湖の魚フェア（内水面まつり）への出展

毎年ゴールデンウィーク期間中の5月3日、4日に、相模川高田橋上流河畔(田名青少年広場)において、神奈川県内水面漁業協同組合連合会などが主催する「内水面まつり」が開催され、魚のつかみ取り大会、アユの放流体験などが行われています。

また、期間中は、1千匹以上の鯉のぼりが、相模川に渡されたロープで群泳しています。

企業団では、このイベントにブースを出展し、企業団の行っている事業を来場者のみなさまに紹介しています。

■ 酒匂川水系水源監視モニター制度

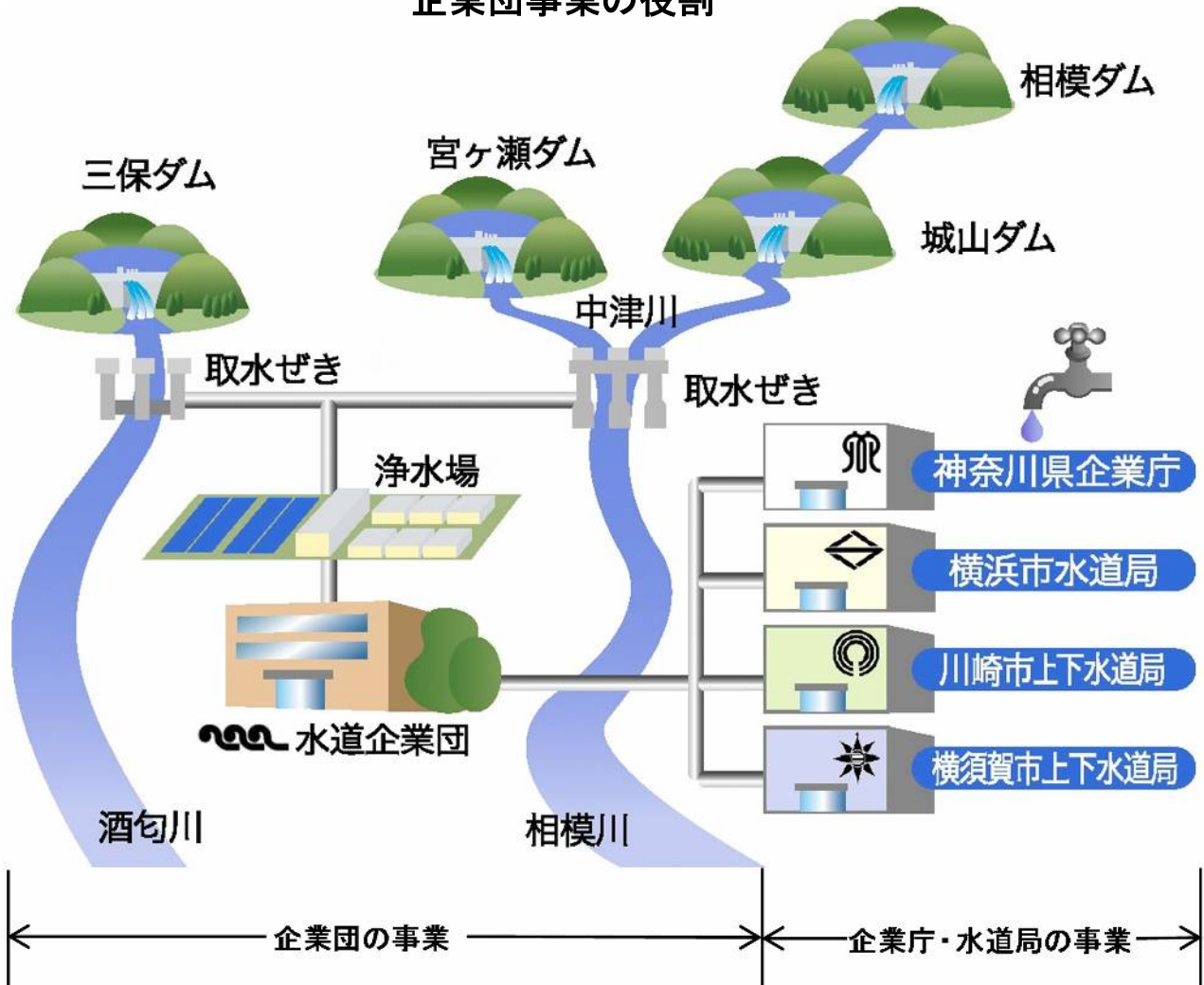
企業団では、酒匂川水系の水質事故を防止し、水質保全を図るため、酒匂川流域の市町にお住まいの方々30名に2年間の任期で流域巡視、異常時の通報等水源監視をお願いしています。

■ 酒匂川流域下水道負担金

企業団では、酒匂川水系の環境保全を図り、水源の水質を良好な状態に保つため、下水道施設建設費の一部を負担しています。



企業団事業の役割



- 環境報告書2016
平成29年3月発行

編集・発行

- 特別地方公共団体
神奈川県内広域水道企業団 総務部総務課
〒241-8525
横浜市旭区矢指町 1194 番地
TEL : 045-363-6435 (直通)、FAX : 045-363-1121
URL : <http://www.kwsa.or.jp/>